

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 63-261455

(43)Date of publication of application : 28.10.1988

(51)Int.Cl.

G06F 15/20
G06F 3/023

(21)Application number : 62-095566

(71)Applicant : SANYO ELECTRIC CO LTD

(22)Date of filing : 17.04.1987

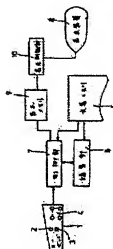
(72)Inventor : SHIRATA AKIRA

(54) DOCUMENT EDITING SYSTEM

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain multifunction without increasing the number of edition keys by starting an editing function having high using frequency by the single operation of an edition key and starting an editing function with low using frequency by the simultaneous operation of the edition key and a specific key.

CONSTITUTION: When a centering key 2 to be the edition key on a keyboard 1 is depressed, a control part 7 decides the single operation of the key 2 or the simultaneous operation with an extension key 3. At the time of single operation, the control part 7 immediately applies a start command to an edition part 6. At the time of simultaneous operation with the extension key 3, the control part 7 displays plural editing function names relating to the operation on a display device 8. When one of ten keys 4 is depressed in order to select a function after said display, the control part 7 applies a start command for the editing function corresponding to the depressed ten-key to the edition part 6. Thus, multifunction can be obtained without increasing the number of edition keys.



⑪ 公開特許公報(A) 昭63-261455

⑫ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)10月28日

G 06 F 15/20
3/0233 0 1
3 1 0R-7218-5B
L-8724-5B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 文書編集方式

⑮ 特 願 昭62-95566

⑯ 出 願 昭62(1987)4月17日

⑰ 発 明 者 白 田 明 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋電機株式会社内

⑱ 出 願 人 三洋電機株式会社 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地

⑲ 代 理 人 弁理士 西野 卓嗣 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

文書編集方式

2. 特許請求の範囲

(1) 編集を指示する編集キーと、編集機能を選択する選択キーと、表示手段とを備え、前記編集キーの単一操作に応じて、対応する単一の編集機能を起動し、前記編集キーと特定キーとの同時操作に応じて、該編集キーに関連する複数の編集機能名を前記表示手段に表示し、表示後の前記選択キーの操作に応じて、選択された編集機能を起動することを特徴とした文書編集方式。

3. 発明の詳細な説明

(イ) 産業上の利用分野

本発明は、ワードプロセッサ等の文書編集装置において、編集機能を起動する方式に関する。

(ロ) 従来の技術

特開昭61-122773号公報に開示されているように、従来の文書編集装置では、キーボード上に、センタリング、左寄せ、右寄せ等の編集

機能に各々対応した個別の編集キーを設け、オペレータがいずれかの編集キーを操作することにより、所望の編集機能を起動していた。

又、複数の編集機能を代表する編集キーを設け、このキーの操作に応じて、表示画面に関連する複数の編集機能名を表示し、テンキー等の選択キーの操作により、いずれか一つの機能を選択起動する方式も行われていた。

(n) 発明が解決しようとする問題点

従来の技術において、前者の方式は、各編集機能に一対一に対応する編集キーが必要なため、キー数の増加を招き、近年の多機能化には適さず、又、後者の方式は、代表される複数の編集機能中に、使用頻度の高い機能と低い機能が存在しても、いずれの機能も同じレベルで同一の編集キーに割り付けられているため、いたずらに操作を複雑にするという問題点があった。

(ニ) 問題点を解決するための手段

本発明は、編集を指示する編集キーと、編集機能を選択する選択キーと、表示手段とを備え、前

記編集キーの単一操作に応じて、対応する単一の編集機能を開始し、前記編集キーと特定キーとの同時操作に応じて、該編集キーに関連する複数の編集機能名を前記表示手段に表示し、表示後の前記選択キーの操作に応じて、選択された編集機能を開始することにより、上記問題点を解決するものである。

(*) 作用

本発明では、複数の編集機能の一つの編集キーに単に割り付けられるだけでなく、編集機能の使用頻度の高いものと低いものとをレベル分けすることが可能となり、従って、使用頻度の高い機能は単一操作で起動でき、低い複数の機能は、同一編集キーと特定キーの同時操作及び選択キーの操作によって、起動することができる。

(ハ) 実施例

第2図は本発明の実施例としての文書編集装置の機能を示すブロック図であり、(1)はセンタリングキー(2)及びアンダーラインキー等の種々の編集キー、拡張キー(3)、テンキー(4)等を備えた

キーボード、(5)は文書を記憶する文書メモリ、(6)は種々の編集機能を実行する編集部、(7)は各部の制御を行なう制御部、(8)は表示装置、(9)は文書メモリ(5)内の表示すべき内容を記憶する表示メモリ、(10)は表示制御部である。

第1図は、本実施例の処理内容を示すフローチャート、第3図は本実施例の表示例であり、ここでは、編集キーとして、センタリングキー(2)を操作した場合の例について説明する。

先ず、キーボード(1)上で編集キーが操作されると、制御部(7)は、どの編集キーが操作されたのか、その種類を判定し、更に、その操作が単一操作か、もしくは、拡張キー(3)との同時操作かを判定する。そして、単一操作であるときは、編集部(6)に即座に起動指令を与え、操作された編集キーのキートップに刻印されている編集機能を起動する。例えば、第3図(イ)に示すように、表示画面(11)のやや左寄りに文字列「ABC」が表示され、カーソル(12)がこれらの文字列と同一の行にある状態で、オペレータがセンタリングキー

(2)を操作すると、センタリング機能が直接起動され、第3図(ロ)に示すように、文字列「ABC」は表示画面(11)の中央に移動される。

一方、拡張キー(3)と同時に編集キーが操作されたときは、制御部(7)は、操作された編集キーに関連する複数の編集機能名を示すデータを、表示メモリ(9)の最下行に書込むことにより、これらの機能名を番号を付加して、画面(11)上に表示する。そして、表示後、キーボード(1)上で機能選択を行うため、テンキー(4)が操作されると、制御部(7)は操作されたテンキーに対応する編集機能の起動指令を、編集部(6)に与え、その編集機能を開始する。

この例の場合、拡張キー(3)とセンタリングキー(2)が同時に操作されると、画面(11)上には、第3図(ハ)の如く、「左寄せ」、「センタリング」、「右寄せ」の3種類の機能名が、各々、番号「1」、「2」、「3」と共に表示され、例えば、テンキー(4)の3キーを操作すると、右寄せ機能が実行され、第3図(ニ)に示すように、文字列

「ABC」が最も右寄りに表示される。勿論、1キーを操作すれば左寄せ機能が実行される。

尚、本例では、拡張キー(3)との同時操作時にも、センタリング機能を起動可能としたが、センタリングキー(2)の単一操作により直接起動できるので、省略しても良い。

このように、本発明では、使用頻度の高いセンタリング機能を起動するためには、センタリングキー(2)を単に操作すれば良くなり共に、同じセンタリングキー(2)を用いて、関連する左寄せ機能及び右寄せ機能も起動可能となる。

ところで、本発明は、アンダーラインキーと「アンダーライン」、「あみ」、「反転」の文字修飾機能との複合、サークキーと「サーク」、「回転」、「穴あけ」との複合等、ほとんどの編集機能に適用可能である。

(ト) 発明の効果

本発明に依れば、使用頻度の高い編集機能は、編集キーの単一操作という最も簡単な操作で起動可能となると共に、関連する使用頻度の低い編集

機能も同一の編集キーを用いて起動可能となるので、編集キーの数を増加させることなく多機能化を実現でき、同時に、オペレータの負担も軽減できる。

従って、熟練者しか使用しないような高機能を多数持たせながら、初心者にとってはキー操作が簡単な文書編集装置を実現できる。

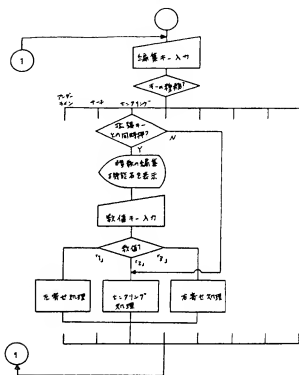
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例の処理内容を示すフローチャート、第2図は本発明の実施例の構成を示すブロック図、第3図は本実施例の表示例を示す図である。

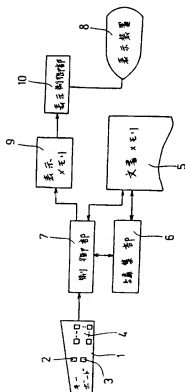
(1)…キーボード、(2)…センタリングキー、(3)…拡張キー、(4)…テンキー、(6)…編集部、(7)…制御部、(8)…表示装置。

出願人 三洋電機株式会社
代理人 弁理士 西野卓朗 外1名

第1図



第2図



第3図

